

友の会通信

2007
Vol.
17

～群馬県立自然史博物館友の会～



河原に生息する 野鳥の観察会

平成19年6月10日(日)
高崎市乗附緑地周辺の河原

今年度最初の友の会フィールド活動が、栗附の碓氷川近くで行われました。この日は朝からぐずついた天気で、野鳥観察会ができるか心配でしたが、参加者16名全員の願いが通じたのか、観察会の時間だけは奇跡的に雨がやみました。日本野鳥の会群馬県支部の土屋等氏、鈴木正利氏のお二人を講師に迎え、フィールドスコープでアップにとらえた鳥たちの魅力を、たっぷりと教えて頂きました。2時間の観察会で確認された鳥は、カワセミやオオタカ、カルガモの雛子などなど26種にものほりました。

観察会に参加すると、毎回新しい発見があります。今回参加できなかった方は、次回は是非ご参加下さい。

(19-582 北川眞理子)

参加者の声

●スズメやカラスくらいしかいないと思っていましたが、河原にいろいろな鳥がいて、びっくりしました。講師の先生も、いろいろな質問によく答えてくれました。

(19-029 岡田 健美)

●この時期、私の家で聞こえるカッコウの声が今年は聞こえないので、どうしたのかと不思議に思っていました。そこで、野鳥の会の方に聞いたところ、「カッコウの数が減っている、東南アジアが荒れているので…」と答えていただき、そうなのかと思いました。観察会では、私の目では二十数羽も確認できなかったけれど、鳥の声を聞き、姿を追い、川の音もやさしくて、心なごも楽しいひとときでした。

(19-031 塚越やよい)

●はくは、野鳥観察会へ行って楽しかったです。野鳥の会の人々が、始まる前から教えてくれました。とても目がよく、聞き声も聞こえた方をすぐ見て、どの鳥かがわかるのがすごいなと思いました。

(19-079 倉金 正幸)

●カワセミを初めて見ました。おもしろかったです。また参加したいです。ありがとうございました。

(19-080 倉金 暎子)

●初めて観察会に参加しました。子連れでの参加でしたが、野鳥の会の方には、小2・小5の子ども達にもわかりやすく丁寧に教えていただき、ありがとうございました。短い時間でしたが、たくさんの鳥を観察することができ、とても充実した時間を過ごすことができました。次回の観察会を楽しみにしています。

(19-077 倉金由起子)

●オオヨシキリがさえずる位置の遠いで、「超人募集」なのか、「なわばり宣言」なのか見分けがつかないこと。なるほどと納得しました。

(19-582 北川眞理子)

●心配していた雨も集合時にはやみ、暑くなく、まぶしくもなく探鳥会日和でした。講師の先生のご指導で26種もの鳥を観察できました。雛の方は白く背が青味帯びた灰色、頭に冠羽のアオサギが水辺にたつて、じっと日光浴をしている姿は、まるで名画を見るようでした。また、瑠璃色をしたカワセミの飛び姿、カルガモがコガモを引き連れて川辺を泳ぐなどの光景が、とても印象に残りました。すばらしい探鳥会でした。

(19-504 堀越 友子)



平成19年度「友の会」総会開催

5月13日(日) 参加者 24名

平成19年度の総会が、5月13日(日)午後2時から博物館学習室で行われました。総会では、昨年度の事業報告及び決算報告、今年度の事業案並びに予算案、友の会規約の一部改正について審議されました。その中で決定した主な事項を報告します。

★友の会規約一部改正について

第8条 (役員の出選および任期)

(現行)

同一の役職での再任は2期を上限とする。ただし、運営委員の再任を当分の間3期とする。

(改訂)

同一の役職での再任は妨げない。

★平成19年度友の会役員について

今年度は、事務局2名が変わりました。会長を初め、他の役員については変更はありません。今年度は、下記の役員となりました。よろしくお願いします。

平成19年度
役員・事務局

【会長】 池下 隆雄	【運営委員】 森平 利政	【顧問】 横田 英一
【副会長】 川原 英雄	角田 寛子	青木 道雄
西田 隆良	柚木 郁	原 浩一郎
【監事】 山田 利和	堀越 友子	【事務局】 瀬下 保
徳江 紀	堀越 武男	野口 嘉充
	北川眞理子	松本 功

友の会講演会

平成19年5月13日(日) 参加者32名

友の会総会に合わせて、毎年恒例の長谷川善和館長による講演が総会後に行われました。友の会会員は、館長の講演を楽しみにしており、中には、「総会には間に合わないけれども講演には間に合うように行きます」という会員の方もいました。

今年度の講演は、「不思議な骨の追跡」というテーマで、館長が最近気になること、不思議な骨の追跡の2つの内容で講演をしていただきました。

まず初めの講演内容「館長が最近気になること」は、外来生物の話でした。外来生物は哺乳類学会で問題になっており、博物館(高岡市)のまわりでも外来生物が報告されています。隣町の甘藷町ではカミツキガメ、下仁田町ではアライグマが発見されたニュースが、最近テレビで放送されました。外来生物によって在来生物に与えるストレスは大きく深刻な問題であること、特に飼育をする人たちに管理を充分にしてほしいことなど、私たちと自然とのかかわり方について警鐘を鳴らされました。

次に、「不思議な骨の追跡」では、実物の骨化石を提示しながら話をしていただきました。これは松本市四賀から1965年以前に発見された化石で、しばらくの間、何の化石だかわからなかったのですが、長年の研究の結果、大



型の海生哺乳類(セイウチの先祖:アルデスモス)の陸茎骨であることがわかりました。実物化石は先端が欠損していますが、その部分は見つかっていませんが、形がよく似たセイウチと比べて復元すると、全体の大きさは約70cmになることがわかり、世界最大の陸茎骨であることが判明しました。その大きさから推定される動物の体長は数mにもなり、未知の巨大海生哺乳類がいたことが推測されます。その他、比較のために収集された他の動物の陸茎骨標本を紹介していただきました。



友の会会員からのおたより



～下仁田町は地質研究の宝庫～

下仁田というと、ネギとコンニャクの産地として全国的に知られていますが、それだけではありません。「根無し山」や中央構造線の東への続きといわれる大断層など貴重な地質構造が数多く見られ、地質研究の宝庫といわれています。下仁田町では、これらの貴重な自然遺産を町おこしに役立てようとして、県の補助を受け、下仁田自然学校の協力を得て、案内板を町内10箇所に設置しました。

岩石や地層などの新鮮な部分が地表に現れている部分や状態を露頭といいます。それが地質の構造などを調べる手掛かりになります。下仁田町には露頭がたくさんあり、その複雑な地質構造を知ることができます。中でも特に重要なものが10箇所に選定され、それぞれについての案内板が設置されています。



根無し山のすべり面

案内板にはステンレス製の箱が付いていて、その露頭についての説明資料が入っています。

写真で示した案内板は、新合之瀬橋の南にあります。下仁田町の地質概要と他の案内板の位置と内容が説明されています。露頭見学を試みられる場合は、ここからスタートされるのが適切かと思えます。

案内板や説明資料の内容についてのお問い合わせは下記へお寄せください。

〒370-2604 下仁田町吉崎 58-1

下仁田自然学校 TEL0274-70-3070

開校時間：火・水・木・金曜日 10時～16時

(19-501 森平 利政)



地質見学ポイントを紹介した案内板

～榛名湖のワカサギ～

この時期に季節外れの話をするのは気が引けますが、榛名町の町誌編纂にかかわった関係から、魚について調べる機会を得ることができました。その中から、榛名湖のワカサギについてお話ししたいと思います。

秋、解禁日になると、釣りファンのボートで湖面いっぱいになり、周辺の山々の紅葉と相成った光景は観光名物になっています。しかし、何といても、色とりどりのフードと風球けのテントで結氷した湖を埋める穴釣りは、冬の風物詩として一見の価値があります。ワカサギは朝夕を中心に群遊し、回遊しながら摂食する習性があるため、数m先では盛んに釣れるのに、その場所では全く釣れないことがあり、それもまた一興であります。

ワカサギはキュウリウオ科に属する魚で、皆さんも良く知っているシシャモのなかまになります。本来は回遊魚で川や湖など淡水域で産卵し、降海して成長し、遡上する習性を持っていたものが淡水域に陸封され、適応したものです。県内の天然ワカサギは、すでに絶滅した種となっています。



釣り上げたワカサギ

榛名湖では、昭和2年に最初にワカサギが放流され、それ以後は例年放流されています。ワカサギは、一般的に早春になると流入河川を遡上して産卵しますが、榛名湖には流入河川がないため、湖岸に産卵すると考えられています。しかし、そのような自然増殖が見られなかったため、ほとんど流れのない富士川に流れを作り、産卵場所の確保の工夫を行いました。それにより、ワカサギの遡上が見られるようになりましたが、榛名湖の水位に干水期と満水期で1m程度の差があるなど解決しなければならぬ問題があり、今後の課題となっています。自然増殖が軌道に乗ることを期待しています。

榛名湖へ出かける機会がありましたら、そのような角度から観察されるのも良いと思います。

(19-543 柚木 郁)



ワカサギ釣りの風景(結氷した湖面上のテント)

友の会視察研修旅行のお知らせ

今年度の友の会視察旅行は、東京都墨田区にある「江戸東京博物館」を予定しています。期日は、11月18日(日)です。募集案内は後日発送しますので、ぜひご参加ください。定員は50名です。応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

江戸東京博物館

江戸東京博物館は、失われつつある江戸東京の歴史遺産を守るとともに、東京の歴史と文化を振り返ることによって未来の東京を考えるために設立された博物館です。常設展示室は、「江戸ゾーン」「東京ゾーン」「第2企画展示室」で構成され、浮世絵や絵巻、着物、古地図など約2,500点、大型模型など約50点あまりが展示されています。

視察研修日は、特別展「文豪・夏目漱石 そのころとまなざし(期間:平成19年9月26日~平成19年11月18日)」が開催されています。

新出版物の紹介

第27回企画展
「アイスエイジ
氷河時代を生きた動物たち」
一般 500円 会員 450円



「昆虫をかんさつしよう」
一般・会員 50円



2月までの友の会の主なイベント

10月

・21日(日) 地層・化石の観察会
(神流町恐竜センター)

11月

・18日(日) 友の会視察研修旅行
(江戸東京博物館)

2月

・16日(土) 友の会天体観望会
(自然史博物館屋上の天体ドーム)

賛助会員

(7月末現在) 以下、法人・個人の方に趣意賛同いただきました。ありがとうございました。

- | | | |
|---------------------|-------------------|-------------------------|
| ■ 青木道雄(2口) | ■ 高崎ビューホテル(株)(1口) | ■ (有)市川会計事務所(1口) |
| ■ 群馬トヨタ自動車(株)(1口) | ■ 佐藤春利(1口) | ■ (株)藤井組(1口) |
| ■ 富士ゼロックス群馬株式会社(1口) | ■ 高崎冶金工業(株)(1口) | ■ 鈴木会計事務所(1口) |
| ■ (有)山田会計(1口) | ■ 原株式会社(1口) | ■ プリテストーンタイヤ高崎販売(株)(1口) |
| ■ (株)糸庄(1口) | ■ 川原英雄(1口) | ■ ラジエ工業(株)(1口) |
| ■ システム・アルファ(株)(1口) | ■ 黒澤弘子(1口) | ■ 富岡ロータリークラブ(1口) |
| ■ 野口会計事務所(1口) | ■ 小松総業(株)(1口) | |

編集後記

「これは何?」「どうして?」など、幼い頃は誰もが好奇心いっぱいです。そんな好奇心に応える一助が、数々のイベントも含めて博物館だと思います。お届ける友の会通信もささやかにお手伝いできているでしょうか。紙面へのご希望ご要望などお寄せいただければ、相談しながらよりよい通信を作るために努力していきたいと編集委員一同考えています。

友の会通信編集委員 角田 真子